

令和6年3月18日

鹿沼市議会  
議長 谷中 恵子 様

産業建設常任委員会  
委員長 小島 実

### 産業建設常任委員会行政視察報告書

産業建設常任委員会行政視察について、下記のとおり報告いたします。

#### ① 調査事項

##### (1) 大阪府和泉市

「ごみ削減取り組みについて」

「自然環境調査について」

##### (2) 大分県別府市

「Park-PFI を活用した公園整備の取り組みについて」

##### (3) 大分県

「大分県林業研修所について」

「おおいた林業アカデミーについて」

② 参加者 委員長 小島 実  
副委員長 大島 久幸  
委員 関口 正一  
鈴木 毅  
石川 さやか  
宇賀神 敏  
橋本 修  
駒場 久和

### ③ 視察概要

#### (1)大阪府和泉市

「ごみ削減の取組みについて」

和泉市ではごみの分別によりごみ削減を進めてきていたが、削減量が飽和状態になったため、平成24年度にごみダイエット作戦を打ち出した。家庭系日常(可燃)ごみについて調査を行ったところ、日常(可燃)ごみ質分析結果を行ったところ焼却されるごみの中に含まれる33%が紙類であり、まだまだ大切な資源が多く燃やされていることがわかり、平成24年度実績の20%減を目標に平成27年10月より有料指定袋の導入を開始して実績を上げている。今回、平成24年度～令和4年度の実績を紹介していただいた。

平成24年家庭系日常可燃ごみの排出量実績は33,673tであり、平成24年度実績の20%減26,938tを目標に取組みを続け、令和4年度の排出量は26,986tとなり、目標まであと48tである。

ごみダイエット作戦の三本柱である①紙ごみの分別、②生ごみの水切り、③食品ロスの削減を掲げ、①紙ごみの分別では、紙ごみ分別用紙袋を平成30年8月に全戸配布して、さらなる紙ごみ分別とごみ減量啓発を進め、集団回収と月2回の行政回収を行っている。

②生ごみの水切りでは、生ごみの水切り封筒を配布し、水切り啓発を行うとともに水切りシートによる水切りをはじめ、家庭用生ごみ処理機(電動式)の3分の2(補助限度額40,000円)、生ごみ処理機(キエーロ)の3分の2(補助限度額14,000円)、ほか、コンポストやEMぼかし生ごみ堆肥化容器は4分の3(補助限度額5,000円)、EMぼかし生ごみ容器は2,000円など、生ごみ処理機等の購入補助を幅広く行っている。

③食品ロス削減については、ごみダイエット作戦の封筒を配布し、HPにて啓発を行っているが、各家庭の取組みに違いがあり、データを取りづらく成果が確認できないのが課題であるとのことであった。

また、プラスチックごみ削減に向けた取組みとして、和泉市、HOYA(株)、桃山学院大学の三者で連携協定し、使い捨てコンタクトレンズ空ケース回収ボックス(市役所に2箇所、桃山学院大学に3箇所、市内公共

施設に6箇所)を設置したり、使用済みインクカートリッジの回収ボックス(市内公共施設に3箇所)を設置したり、回収しやすい環境づくりをすることで、プラスチックごみ削減にも取り組んでいる。

また、これらの取組みをすべて一度にやるというのではなく、毎年重点的に取り組むテーマを変えながら市民の意識に訴えるという方法により効果を上げることに成功している。

#### ○所感

ごみダイエット作戦どおりに、年々家庭系日常ごみは減少し効果を上げている。有料化をしたとしても慣れにより、減少速度が緩やかになり増加に転じることも考えられるが、年度ごとに目標を変え具体的に示すなど細かくアナウンス(広報)することにより、削減の意識付けをしている。特に生ごみの水切り、雑古紙の分別収集等、細かく市民の協力を得てごみ削減を実現している。

#### 「和泉市の自然環境調査について」

和泉市では、市北東部の信太山丘陵を中心に平成20年度から市内の自然環境を調べている。平成25年度から市北東部の市域を北・中・南の3区域に大きく分けて、市内を1平方km<sup>2</sup>(メッシュ)で区切り、生物分類検定2級以上の資格を有する技術者を配置可能な業者による委託で自然環境調査(メッシュ調査)を実施した。また、平成28年度からは動植物調査と別に「ホタルの生息調査」も、毎年2メッシュ実施している。

調査は自治会や子ども会等とも共同で実施し、和泉市の自然環境保全の大切さを自然から学ぶ姿勢を育む自然調査を行っている。

#### ○所感

これらの取組みは今後、和泉市の自然環境を守ることや危険外来生物に対する警鐘ともなり、また義務教育の過程でそれらを活用して、子どもたちに故郷の自然に対する愛着と環境保全に対する気持ちの植え付けとなる。



## (2)大分県別府市

### 「Park-PFI を活用した公園整備の取組みについて」

別府市は、日本一の温泉湧出量と泉質の豊かさを誇る温泉で随所から立ち上がる湯けむりが自慢の温泉地であり、中でも「地獄めぐり」は有名で、国内外から多くの観光客が訪れる温泉名勝地である。

別府市は、総合計画にも各公園の整備拡大を上位に位置づけ、公園の機能拡充を図ることを検討している。一日中過ごせる公園の実現を目指し、その中で地域ごとの特徴を活かした比較的大きな4つの公園について、公募設置管理者制度（Park-PFI）を活用した公園整備事業を行っており、その中でも別府公園駐車場便益施設等整備事業は、公園東側にあたる大きな駐車場の一部を民間企業の店舗として利活用し、お客様が家庭、職場や学校、その次の第三の居場所としての自分らしく過ごすことのできる場所として、広く市民へ提供することで、つながりを通じて皆様に愛される店舗となっている。

事業効果について Park-PFI 活用前の公園利用者数は、日常利用の散歩・ジョギング、子ども連れ＋イベントで年間約8万人であることに対して Park-PFI 活用後は、日常利用者＋32.7万人で、年間約40万人と、大きく公園利用者数増加に貢献している。また、市の駐車場収入が活用開業前は年間約500万円だったのに対し、活用開業後は年間約1,150万円と収入を倍以上に上げている。駐車場の管理支出についても開業前は年間約700万円であったのに対し、開業後は駐車場の管理方法も無人化して、年間約500万円と支出を減らすことができた。

## ○所感

日本有数の温泉地として発展してきた別府市は、人の住める市域が扇状地の形態をしておりそのほとんどが市街化区域である。その中の比較的大きな公園の整備に Park-PFI という手法を用いた。市民に親しまれながら行政財産を有効に活用し、民間企業も潤うという、厳しい財政運営の中においても工夫を凝らした点において、少なからず財政支援となる事業であった。駐車場運営の赤字解消に加え、施設設置許可使用料収入によって、この事業は成功事業の最たるものであると感じる。今後、鹿沼市の公園整備事業や花木センター道の駅化事業に大変参考になる視察であった。



## (3)大分県

「大分県林業研修所について」

「おおいた林業アカデミーについて」

おおいた林業アカデミーは、林業分野への就業にあたり、将来的には林業経営を担う有望な人材を育成するため、座学や現場研修を通じ、林業に関する体系的な知識や技術を習得するとともに、就業に必要な資格を取得し、即戦力となる担い手を育成する1年間の研修である。

### 1. 実施主体

公益財団法人森林ネットおおいた  
大分県からの補助事業として実施

## 2. 研修対象者

森林組合や林業会社など林業分野への就業を目指す42歳以下の未就業者（月額12.9万円の国の給付金制度を活用）

## 3. 研修期間

4月中旬から翌年3月までの11か月間、午前9時から午後4時まで延べ200日・1200時間の座学、実習等を実施

## 4. 研修内容

- ・森林、林業や木材産業に関する基礎的な知識
- ・林業労働安全衛生上に関する知識
- ・林業作業に使用する機械の構造や操作方法（刈払機、チェーンソー、小型移動式クレーン等の資格取得）
- ・作業実習（下刈り、間伐等）や事業体でのインターンシップ

### ○所感

毎年満たされた定員が受講し、最新のシミュレーター・大型機械・索道実習等をこなし、近隣の国有林や九州電力所有の山林、温泉地の景観保持の下草刈りを実地研修するなど資格獲得のための講座が豊富であり、林業に従事する目的と心構えを持って多くの人材を育てていると感じた。安全で確実な林業を実践するため、必要な技術、知識、現場の条件や機械化作業に対応する創造力を養い、将来、地域林業の中核的担い手として活躍できる、林業研修所「おおいた林業アカデミー」であり、今後の、鹿沼の林業分野の養生に大いに参考になった視察であった。

